

2022年4月の医療特約の改定について

2021年11月12日



医療特約改定の背景

■ 外部環境やお客さまニーズの変化に応える、魅力ある医療特約の提供

外部環境の変化

お客さま ニーズ

医療保障ニーズ: 死亡保障を抑えて医療保障は手厚くしたい*1
基本契約: 100万円、特約: 500万円

*1 かんぽ生命保険による消費者調査

入院

入院した場合、短期・長期ともに相応の自己負担となる
入院日数16日*2: 約20万円、入院日数78日*3: 約84万円

*2 平均入院日数 *3 脳血管疾患における平均入院日数

手術

入院を伴わない(外来)手術の定着
外来手術の割合: 46.8%(2019年度)*4

*4 厚生労働省「社会医療診療行為別統計」

保険料

保険料低廉化ニーズの高まり
世帯での年間保険料負担額:
45.4万円(2009年度) ⇒ 38.2万円(2018年度)*5

*5 生命保険文化センター「平成30年度 生命保険に関する全国実態調査(速報版)」

対応の方向性

基本契約と特約の
保険金額の設定要件見直し

入院一時金の増額と複数回払い

外来手術への保障の増額

保険料の低廉化

医療特約の改定概要

改定のポイント

お客さまニーズに合致し、ご加入しやすいプランが提案できる医療特約に改定

- ①死亡保障と医療保障の必要額を設定する自由度を高め、保険料を抑えて手厚い医療保障を提供
- ②千円単位のキリの良い入院日額となるように、入院日額に対する特約保険金額の換算割合を変更
- ③短期入院でも手厚い保障の提供を実現
- ④重篤な疾患で長期入院した場合にはさらに手厚い保障の提供を実現
- ⑤外来手術と入院中手術の給付額を揃え、わかりやすさを実現

		(現行) 医療特約	改定のポイント	(改定後) 医療特約
特約保険金額の設定要件		基本契約の保険金額と同額まで	①	基本契約の保険金額の 5 倍まで
入院保険金日額		特約保険金額×1.5/1000	②	特約保険金額× 1.0 /1000
入院一時金	支払倍率	入院日額× 5 倍	③	入院日額× 2 0 倍
	支払回数	1 入院 1 回	④	1 入院 最大 5 回 (初日および30日ごと)
手術保険金		入院中手術:入院日額× 20 倍 外来手術:入院日額× 5 倍	⑤	入院中手術・外来手術ともに 入院日額× 1 0 倍

改定前後の商品イメージ

改定前後の医療保障の給付額例

定額終身

死亡保険金額 500万円

医療特約 (I 型)

特約保険金額 500万円

(一時金3.75万円+入院保険金7.5千円) **45,000円**

(一時金3.75万円+入院保険金22.5万円) **262,500円**

(一時金3.75万円+入院保険金90万円) **937,500円**

(入院中手術 1 回分) **150,000円**

(外来手術 1 回分) **37,500円**

死亡保険金額を抑制することで、保険料総額が低下

入院1日

入院30日

入院120日

入院中手術

外来手術

定額終身

死亡保険金額 100万円

医療特約

特約保険金額 500万円

↑ **105,000円** (一時金10万円+入院保険金5千円)

↑ **350,000円** (一時金20万円+入院保険金15万円)

↑ **1,100,000円** (一時金50万円+入院保険金60万円)

↓ **50,000円** (入院中手術 1 回分)

↑ **50,000円** (外来手術 1 回分)

引受基準緩和型医療特約の改定

■ 引受基準緩和型の医療特約も同様の趣旨で改定

		現行		改定後	
名称		無配当総合医療特約	引受基準緩和型 無配当総合医療特約	無配当総合医療特約	引受基準緩和型 無配当総合医療特約
入院日額		特約保険金額 ×1.5/1000		特約保険金額 × 1.0/1000	
入院一時金	金額	入院日額の 5日分		入院日額の 20日分	入院日額の 10日分
	支払回数	1 入院 1回まで (初日のみ)		1 入院 最大 5 回 (初日および30日ごと)	1 入院 最大 3 回 (初日および30日ごと)
手術 保険金	入院中	20倍	10倍	10倍	
	外来	5倍		10倍	
基本契約（死亡保障） 100万円に対する特約 保険金額の上限		100万円 (基本契約の1倍まで)	500万円 (基本契約の5倍まで*)	500万円 (基本契約の 5倍 まで)	
入院日額		1,500円	7,500円	5,000円	
日額1,000円となる 特約保険金額		設定できない		100万円	

* 加入年齢や保険種類等により基本契約の保険金額を超えた設定が一部可能